

# 葉と幹

小川未明

青空文庫



ある山やまに一本ほんのかえでの木きがありました。もう長いことその山やまに生はえていました。春はるになると、美うつくしい若葉わかばを出だし、秋あきになるとみごとに紅葉こうようしました。

町まちから山やまに遊あそびにゆくものは、その木きをほめないものはなかつたのであります。

「なんといいいかえでの木きだろう。」と、子供こどもも年寄としよりも、みなほめたのであります。

けれど、木きはがけの辺ほとりに立たっていましたので、みなは欲ほしいと思おもつても、取とることができませんでした。

あるとき、そんな人々ひとびとがほめるのを、かえでの木きは聞きいたところから、幹みきと葉はとがけんかをはじめました。

「こんな評判ひょうばんになつたのも、俺おれが幾年いくねんの間あいだ、こんなにさびしい陰けわしいところに我慢がまんをして生せい長ちようしたからのことだ。俺おれの姿すがたを見てくれい。雪ゆきのためには、ある年としはおされて危あやうく折おれそうになつたこともあり、また、ある年としの夏なつには、大おお雨あめに根ねを洗あらわれ、もうすこしのことで、この地盤じばんが崩くずれて、奈落ならくの底そこに落おちるか、心しん配はいしたこともあ

る。いま、おまえがたが、踊ったり、跳ねたり、のんきに太陽に照らされて笑ったり、風に吹かれて唄をうたったりすることができるのも、だれのお蔭だと思ふか。けっして俺のご恩を忘れてはならんぞ。」と、幹は、葉に向かつていいました。

すると、木にしげっている葉はいいました。

「それは、一刻だって、あなたのご恩を忘れはいたしません。けれど私たちだって、ただ踊ったり、笑ったり、跳ねたりしているのではありません。いくらずつか、あなたのおためにもなっているでございませう。もし私たちがなかつたら、やはりあなただって、そうしていつまでも達者に生きてはられないのでございませう。」

「そんなら、おまえたちは俺を守つていてというのか。」と、幹は叫びました。

「さようでございませう。」

「ばかばかしい。早く死んで失せろ。いくらでもおまえがたの代わりは生まれてくるわ。」と、幹は体を震わして怒つたのであります。

ある日、くわをかついだ男と、もう一人の男とが、がけの上うへに立ちました。二人は、上うへを仰あおいで、かえでの木きをながめていました。

「ここからは、とうてい上あがれない。あちからからまわってゆかなければだめだ。」  
と、二人ふたりはいつていました。

これを聞いた葉ははびつくりしました。

「あんまり私わたしたちが美しいもので、とんだことになってしまいました。」  
と、葉はは幹みきにいいました。

「うぬぼれてはいけない。おまえたちぐらいの葉はは、この山やまにぎらにあるじやないか。人に間まどもは、俺おれの姿すがたを値打ねうちにしようと思おもっているのだ。」と、幹みきは葉はを冷れい笑しょうしました。

「しかし、私わたしたちは、この山やまからどこへゆくでしょう。もう海うみを見ることもできません。あちらの平野へいやを見下みおろすこともできません。たいへんなことになりました。」と、葉はは氣きをもみはじめました。

「おまえたちのことを俺おれが知るものか。人間にんげんどもは俺おれを大事だいじにするだろう。苦くるしいものすこしの間あいだだ。じきにどこかいとところへ移うつして、俺おれの弱よわらないようにするにちがいない。

そして、また来年は新しい芽を出して、俺の威厳がいつそう加わるだろう。」と、幹はいいました。

「そんなら、私たちはどうなるのですか？」と、多くの葉は、泣き声を出して訴えました。が、幹は黙っていました。

「ああ、ここまで上ると、よい景色だ。海が見える。」と、先刻のくわをかついだ男は、かえでの木のそばに現れていいました。

二人の男は、ついにかえでの木を掘り出しました。一人はその木をかついで、一人はくわをかついで、ともに山を下りました。そして、かえでの木を車の上に乗せて、ガラガラと田舎路を引いて町の方へとゆきました。

「ああ、水が飲みたい。ああ、息苦しくなった。」と、道々、葉は訴えましたけれど、幹は、黙っていました。この男は、あまり植木について巧者でなかったとみえて、すっかり葉を弱らしてしまいました。晩方、幹は、地に下ろされましたけれど、葉がすっかり枯れてしまったために、まったく力がなくなってしまうと、ついに枯れてしまいました。







# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 2」講談社

1976（昭和51）年12月10日第1刷

1982（昭和57）年9月10日第7刷

初出：「読売新聞」

1920（大正9）年5月7～8日

※表題は底本では、「葉《は》と幹《みき》」となっています。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：江村秀之

2013年10月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 葉と幹

小川未明

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>